

令和4年度第1回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和4年5月30日（月） 午後2時00分

開催場所 仙北市役所田沢湖庁舎 3階 第1会議室

出席者

（構成員）

仙北市長	田口 知 明
仙北市教育委員会教育長	須 田 喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂 本 佐 穂
仙北市教育委員会委員	橋 本 勲
仙北市教育委員会委員	細 川 伸 也
仙北市教育委員会委員	田 口 桂一郎

（市長部局）

仙北市副市長	倉 橋 典 夫
総務部長	小田野 直 光
総務課長	畠 山 徹
総務課主事	佐々木 明日香

（教育委員会）

教育部長	藤 村 幸 子
教育次長兼学校教育課長	鈴 木 徹
教育次長兼角館公民館長	佐々木 信 介
北浦教育文化研究所長	門 脇 貴一郎
教育総務課長	湯 澤 満
学校適正配置準備室長	若 松 正 輝
学校適正配置準備室参事	毛 利 俊 介
生涯学習課長	武 藤 寛 幸
中央公民館長	高 橋 良 宣
田沢湖公民館長	大 石 基
市民会館長	信 田 昌 史
田沢湖図書館長	真 崎 智 明

案 件

- (1) 学校適正配置の今後の進め方について
- (2) 持続可能な社会(仙北市版)を目指すために教育委員会ができる試みについて

小田野総務部長 皆様、こんにちは。定刻より少し早いですが、皆様お集まりのようですので、ただいまから令和4年度第1回仙北市総合教育会議を開催いたします。

本日は、お忙しい中ご出席くださり誠にありがとうございます。はじめに、会議の主催者であります、田口市長からごあいさつをお願いしたいと思います、田口市長お願いいたします。

田口市長 はい。皆様こんにちは。本当にお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。私は、4月で市長に就任してから半年が経ちまして、様々な市の直面している課題についてどのように解決したらいいのか考えておりますけれども、特にやっぱり前回の会議でもお話しさせていただきましたけれども、子ども達の今の教育環境であったり、また、少子化に対してこれから仙北市の将来が関わっている問題というように捉えています。正に教育の在り方が、その自治体の今後の在り方に通ずるものがあるというように、非常に重く受け止めております。

本日の会議において、ぜひ皆様からの忌憚ないご意見を出していただき、あるべきこれからの仙北市の教育の在り方、学校の在り方といったものの意見をお伺いできればと思います。どうかよろしくお願いいたします。

小田野総務部長 田口市長ありがとうございます。次に、須田教育長からご挨拶

長 撈をお願いいたします。

須田教育長

本日ここに、田口市長、倉橋副市長、小田野総務部長、畠山課長、そして教育委員の皆様参加のもと、令和4年度の1回目の仙北市総合教育会議を開催できましたことに感謝申し上げます。この後、教育委員会事務局から今日の議題に対しての提案をさせていただきます。今回の議題は、すべて市が抱えている人口減少に関わる内容であります。

1点目の、学校適正配置準備室からの報告ですが、このあと、若松室長から今後の計画について提案いたします。その前に、先週の視察について少し触れさせていただきますと、湯沢市、北秋田市、横手市、男鹿市、秋田市の5つの市の教育委員会を準備室のメンバーと一緒にまわり、情報交換、協議をして来ました。どの教育長からも、統合は大変な作業である。住民や保護者にとって直接の利害関係があることから、いろいろな意見が出される。それをどのように集約していくかが一番難儀だと教えていただきました。また、財政的な問題もクリアしなければならず、その点でも助言いただきました。何より大切なのは、行政サイドで強引に行ってもうまくいかない、十分な現状説明をした後、住民や保護者から意見を十分に聞き出し、合意形成を図っていくことが必要だと教えていただきました。しかし、その合意形成が一番難しいそうです。仙北市は、5年後に適正配置計画を作成する予定ですが、十分な期間をとってよかったと改めて感じた次第です。

2点目が、持続可能な社会、仙北市版をつくるために教育委員会ができることについてです。昨年、教育長に就任し、仙北市が抱える最大課題である人口減少について自分なりに1年間、考えてきました。コロナ対応に追われた1年間でしたが、教育委員会の事務局メンバーや北浦教育文化研究所の所員、そして市内校長や教頭、さらには教育委員会主催の会議の参加者の方々と意見交換した結果、作成したものが、今回提示する「仙

北市ヤマメ・サクラマスプロジェクト」です。今まで、教育委員会は、生涯にわたって学び続けることができる環境を整える、社会教育と学校の教育目標を具現化するための環境整備を行う学校教育を支援することが主な仕事でしたが、さらに一步踏み込み、未来の仙北市を担う人間の育成という部分に一層視点をあて、人口減少、特に社会現象に歯止めをかけるための具体策を講じていく必要があると決断しました。今までも、奨学金のゲットバック事業など進めてきたわけですが、一層の具体策を講じていくことで、一人でも二人でも仙北市に残る、戻ってくる若者を育成したいと考えます。この2ヶ月、教育委員会事務局が総力をあげてつくったプロジェクトです。この後、藤村部長と鈴木次長からその詳細について説明してもらいますが、皆様からはいろいろな提言をいただき、このプロジェクトが夢物語で終わらせないようにしたいと考えます。忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

小田野総務部長

須田教育長ありがとうございました。それでは、協議案件に入る前に、構成員の皆様の紹介をさせていただきたいと思えます。配付されている出席者名簿に従いまして、一人一人、自己紹介をお願いしたいと思います。市長と教育長は今お話しいただきましたので、坂本委員からご紹介いただいてもよろしいでしょうか。

坂本教育長職務代理者

はい。教育長職務代理者の坂本佐穂と申します。仙北市の子ども達のために、自分のできる限り、それ以上のことを力を出して頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

橋本委員

西木町上桧木内の橋本勲です。よろしくお願いいたします。

細川委員

仙北市神代から参りました、細川伸也です。よろしくお願いいたします。

します。

田口委員 同じく教育委員の田口桂一郎と申します。どうかよろしくお
願いします。

倉橋副市長 副市長の倉橋です。よろしく願いします。

小田野総務部 総務部長の小田野直光と申します。どうぞよろしくお願
いし
長 ます。

畠山総務課長 4月から総務課に異動となりました、畠山徹です。よろしく
お願い
します。

佐々木主事 総務課の佐々木明日香と申します。よろしく願いします。

藤村教育部長 教育部長の藤村幸子と申します。よろしくお願
い
いたしま
す。

鈴木教育次長 教育次長兼学校教育課長の鈴木徹です。どうかよろしくお
兼学校教育課 願
い
し
長 ます。

佐々木教育次 教育次長兼角館公民館長の佐々木信介です。よろしくお願
長兼角館公民 い
館長 します。

湯澤教育総務 教育総務課長の湯澤満です。よろしく願いします。
課長

若松学校適正 学校適正配置準備室長の若松正輝でございます。どうぞよろ
配置準備室長 しくお願
い
し
ます。

毛利学校適正 同じく学校適正配置準備室参事、毛利俊介です。よろしくお
配置準備室参 願
い
し
ます。

事

門脇北浦教育文化研究所長 北浦教育文化研究所長、門脇貴一郎です。どうぞよろしく
文化研究所長 お願いします。

武藤生涯学習課長 生涯学習課長の武藤寛幸です。よろしくお願いします。

高橋中央公民館館長 中央公民館長、高橋良宣です。よろしくお願いします。

大石田沢湖公民館館長 田沢湖公民館長、大石基です。よろしくお願いします。

信田市民会館長 仙北市民会館長の信田昌史です。よろしくお願いします。

真崎田沢湖図書館長 田沢湖図書館長の真崎です。よろしくお願いたします。

松橋学習資料館・イベント交流館長 学習資料館・イベント交流館長の松橋です。よろしくお願
します。

小田野総務部長 はい。ありがとうございます。

それでは今日の協議案件でございますけれども、学校適正配置の今後の進め方についてと持続可能な社会(仙北市版)を目指すために教育委員会ができる試みについて適正配置計画に向けたスケジューリングについての2件でございます。ここからの進行につきましては、田口市長の方からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

田口市長 はい。それでは、ここから私が進行を務めさせていただきます。今回の議事録署名人は、須田教育長と坂本委員のお二人にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。議事録が完成次第、教育委員会を通して署名をお願いすることになりますので、どうかよろしくお願いたします。

それでは、協議案件に入ります。協議案件（１）学校適正配置の今後の進め方について、担当から説明をお願いします。

若松学校適正
配置準備室長

はい。では、私の方から学校適正配置に向けた進め方の予定について、ご説明させていただきます。お手元の資料をご覧くださいと思います。こちらは、今後、進行の状況によりましては必要な見直しを加えながら進めることとなりますので、あくまでも予定ということでご了承いただきたいと思います。

順に説明してまいります。令和４年２月から４月、これは既に行われたものでございますが、小・中学校のPTAにおいて、現状と課題について説明をいたしたところでございます。

６月中旬、これから、今後の予定であります。広報せんぼくの６月１６日号で学校教育の現状と課題についての説明、それと併せて６月下旬から行う住民説明会の開催案内を掲載したいと考えております。そして６月下旬からから７月上旬にかけて住民説明会と意見交換会を行う予定であります。詳細について、裏面をご覧くださいと思いますが、意見交換会を実施する計画でございます。６月２７日に白岩から始まりまして、７月５日に角館地区を会場として６回開催いたします。会場ですが各地区の小学校の体育館を予定しております。参加対象ですが、小・中学生及び保育園、こども園の保護者の方を含む一般市民としております。開催については、広報でもお知らせしますが、保護者の方には、個別にチラシ配布もして参加を呼びかけたいと思っています。

内容でございますけれども、小・中学校教育の現状と課題についての説明を私どもからしまして、引き続き意見交換としてテーマを「児童生徒数が著しく減少するなか持続可能で望ましい学校教育環境への再構築に向けて」ということでございます。この場では、個別具体的な統廃合の話にはこちらからは触れない予定でおります。まずは、現状を踏まえて全市的な視点で、望ましい学校の方向性について様々なご意見をいただきました

いと思っております。開催にあたりましては、コロナ対策を徹底してまいりたいと考えています。

先ほど、広報せんぼくの掲載についてお話しさせていただきましたけれども、今、原稿の締切間近となっております。まだ未定稿ではありますが、原案をお手元に用意させていただきました。こちらの広報見開きの2ページでございます。タイトルを子ども達に望ましい学校教育環境をみんなで考えましょう、サブタイトルには仙北市への誇りと一体感を醸成し、将来の地域づくりの担い手になって欲しいという願いも含ませていただきました。

4行ほどの部分を読み上げさせていただきますが、「本市の小中学校では、児童生徒数が著しく減少しています。また、多くの校舎では、老朽化が目立つようになってきました。子ども達のために、将来に持続可能で充実した規模や教育環境をつくるため、市民の皆様と現状と課題を共有し、全市的な観点から学校の適正な規模や配置について検討を進めます。」ということでございます。大きく一つ目に、意見交換会にご参加くださいということで、今ご説明しました開催計画のご案内でございます。内容は、先ほどご説明させていただいたものと同一です。その下には、学校適正配置に向けた検討の進め方（予定）ということで、あらかじめ進め方についてお知らせしたいと思えます。

そして、左のページには現状と課題というところで、大きく分けまして、児童生徒数が著しく減少しているという状況について掲載しました。この中では、学校の小規模化が進むとこんなことが起きる、あるいは、複式学級の増加が見込まれている話になりますが、複式学級というのはこういう学級ですというような説明です。そして、出生数の現状。これは平成27年度から載せておりますけれども、ご覧いただいているとおり令和元年度からぐっと減っており、80人くらいで3年間推移しているという厳しい現状にあります。そして、児童生徒数の予測

ということで、この表に掲載してある数字は、令和3年度までの出生数に基づく予測ですので、ほぼこのような推移になると見込まれると思います。黄色の網掛けの部分は、複式学級の数を表していきまして、既に白岩、桧木内、そして令和9年度からは西明寺小学校でも複式になっていくと。それと併せてですね、将来推計も行っておりまして、それによれば、令和17年度では、桧木内中学校、中学校では初でございます。それから、令和22年度では、生保内小学校でも複式が設置される可能性があるということも市民の皆様にあらかじめご認識いただきたいと思う部分でございます。そしてもう一つの課題であります。多くの学校の校舎で老朽化が進み、築年数も相当経っております。やはり、老朽化に伴う傷みが見られるようになりましてということも二つ目の課題として掲載したいと思います。

最後には、学校適正配置に係る提言書、これは平成28年度に学校適正配置研究検討委員会が記載の3つの場合に統合の検討をする状況ということで提言されておりますので、そこも併せて掲載したいと思います。

この現状と課題を皆様にご理解いただいたうえで、関心を持っていただき、そして説明会に来ていただきたいと思っております。

そして進め方に戻りますけれども、7月に（仮称）学校適正配置検討委員会を設置したいと考えております。この設置趣旨でございますけれども、よりよい教育を整備することで学校教育の充実を図る観点から、学校の規模や配置について様々な市民の視点で検討いただくものでございます。それから10月を目途として、アンケートを実施したいと思っております。このアンケートの目的でございますけれども、市民が将来の子ども達の目線に立ったときに、学校にどのような教育環境を望むか、どのような学校になって欲しいかを把握する設問にしたいと考えております。調査の対象は、保育園、こども園、それから小学校、中学校の保護者に加えて、抽出方式で地域住民の方

も含めて行いたいと思っております。先ほどの意見交換会とともに、アンケート結果を踏まえまして、将来目指す教育像・学校像を3月の学校適正配置方針の策定に反映させたいと考えているところでございます。

方針については、次年度以降に具体的な統廃合を含めて検討を行う考え方の基礎となるものでございまして、この段階では個別具体的な統廃合は含まない形を想定しております。年度が越えまして、令和5年度から令和7年度にかけて、この策定した学校適正配置方針に関する住民説明、意見交換会を重ねていきたいと考えております。ここから望まれる学校像を実現する手段として統廃合を含めて進めていきたいと思っております。そして、学校適正配置計画の案を策定したいと思っております。最終的に、令和8年度までに学校適正配置計画を策定したいと考えています。なお、その時点から実際に再編やあるいは整備が完了するまでには、数年かかることが想定されます。また、意見交換等の成り行きによっては、一部の学校で統廃合が先行して行われる可能性も考えられます。

いずれにしましても、学校適正配置を進めるにあたりましては、教育的な視点を第一としながらも、地域活力の維持、加えて住民感情といった難しい問題も複雑に絡んでくる、非常にデリケートな課題が多くあるものと認識しております。想定通りに進む見通しはありませんが、一つずつ段階を踏んで、丁寧に市民の合意形成を図りながら進めていければと思っています。

説明については、駆け足でございましたけれども、以上となります。

田口市長

はい、ありがとうございました。まずは、意見交換会の実施をするというようなことで、最終の完了まで10年くらいを見通した長期計画になりますけれども、ただいま説明をいただきました児童生徒数の予測についてほぼ10年で中学校の生徒については半減するという衝撃的な数字が記載されておしま

すけれども、これから目を背けても現状は変わりませんので、ここを踏まえてこれからの在り方について委員の皆様から質問またはご意見をお聞かせいただければと思います。

全員からお伺いしますので、橋本委員の方からお願いできますでしょうか。

橋本委員

はい。ただいま準備室の方から説明があった計画で進めていただきたいと思います。大切なことは、児童生徒数の推移それから、学校施設等の整備が必要になってくるという、そういうことは一体に考えるということで市民の皆さんと一緒に将来の学校適正配置について考えていただきたいと思います。ことをお願いしながら丁寧に進めていただきたいと思います。

それから一点、アンケートですけれども、学校適正配置検討会でしたか、前回のアンケートで中学校を卒業して高校に在学している生徒等の皆さんが確か対象になっていなかったと思います。ということで、今回は中学校を卒業して現在高校に在学している生徒、あるいは就職している生徒の皆さんも対象にして現在の学校生活等で学んだり、活動したりしたことを実際どのように感じていたのかということ、卒業して間もない皆さんの生の声を聞いてみたらどうかと思いますので、検討していただきたいと思います。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、田口委員お願いします。

田口委員

はい。この計画自体については、先日の教育委員会の定例会でも説明していただきまして、気づいたところはお直ししていただいたわけですがけれども、改めて教育長から5市を視察しての様々な経緯や課題や難儀している点等の報告があったわけですがけれども、それを聞きながら、橋本委員もおっしゃったように、これから住民の理解をどのように得ていくか、

得ていきながら合意形成を図っていくかということ一点に尽きると思います。じっくりと説明を繰り返して、合意形成を図ることが一番重要だと思います。そのなかで、先ほど若松室長もお話しされておりましたけれども、やはり議論の終点でどこを重点にして結論を出すかというか、合意形成を図っていくか、視点の中で一番大事なのは、やはり将来、小学校、中学校の学校に入る子ども達の保護者やその視点に立って議論できるかということに尽きるのでないかと思います。やはり地域の利害関係や大人の様々な利害、地域への思い、そうしたものが当然出てくるかと思えますし、そこを十分踏まえながらの合意形成だと思いますけれども、子どもの視点に立つ、議論の中心に立つ大人がいかに将来仙北市の将来を担う子どもの側に立てるかどうかが一番のポイントではないかと。そこをどう合意形成のなかで訴えていくか。それも無理に訴えていくのではいけないし、理解しながら共有しながら応じていくかということを中心にしながら行っていかなければいけないのかと思います。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、細川委員お願いします。

細川委員

はい。今ご説明していただいた内容に対する率直な気持ちですけれども、子ども達の人数の減少は避けられない状況ですし、表を見ると親御さんたちや地域の皆さんも同じだと思いますけれども、今保育園に通っている子ども達が、これから入る学校というのが多い、少ないは必ずあると思うので、やはり説明会に小学校、中学校、地域の方、保護者の方々の参加はしていただきたいと思うのですけれども、やっぱりこども園に在籍している保護者の方々の参加が多い方が私は望ましいのではないかと思います。それについてのデリケートな部分の説明もしていただきたいというのが率直な意見で

す。以上です。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、坂本委員お願いします。

坂本教育長
職務代理者

はい。児童生徒数の減少の予測を見ると、本当に衝撃を受けるわけですがけれども、それとしっかり向き合っていかなければならないと、イコール統廃合ではないと考えますけれども、そこを人口減少、子どもの人数の少なさというところに着目していかなければならない問題だと思います。長期にわたる計画ですので、今学校に入っている子どもさんではなく、次の世代の子ども達が入るということを考えてですね、地域全体で取り組んでいかなければならない問題だと思いますし、ひょっとしたら令和22年度生保内小学校が複式学級になる可能性があるという、今から16年後なわけですね。そうすると、今いる子ども達が親になっている可能性もあるわけです。そういったことも考えて、子ども達のこと、それから保護者のこと、地域の住民のことをそれぞれ考えて、誰もが納得できるような説明をして、できれば統合ありきではない、最終的な結論で、そこに向かうのではなく全体で考えて進めていくやり方で進めていきたいなと思っています。

田口市長

はい、ありがとうございます。教育長から何かありますか。

須田教育長

はい。皆様からの意見を十分に反映させていきたいと思っております。先ほど、田口委員からもありましたけれども、子どもの視点に立つことが一番大切であるということは、秋田市の方針等も非常に参考になりました。様々な視点を説明しないと、例えば複式学級は私たちが考える意味そのものが、住民には分かれていないということもありまして、複式でも市が複式学級指導支援員を雇えばいいだろうという意見もあったよ

うですが、きちんとその辺については、複式というのはこういう良さがあり、このようなマイナスな面があることを含めて、説明をしていかなければならないと思います。

説明会を何十回もやらなければならないというような話でした。やったところでいろんな意見が出てくるけれども、最終的にはその方向性を見つけ出さなければならない訳ですけれども、なんとか若い世代にも参加いただいて、十分な意見を吸い上げていきたいと考えているところであります。以上です。

田口市長

はい、皆様からたくさんのご意見をいただきました。やはり、丁寧な説明、それから、お子さん又親御さんの意見等をしっかり受け止めたうえで、様々な今後の対策というか教育の在り方について検討しなければならないというご意見でしたけれども、田口委員からお話があった子どもの視点に立ってというのがありましたけれども、実際、具体的に言うと、子どもの視点というのはどのようなイメージですか。

田口委員

子どもがその環境に立ったときに、どういう教育が望ましいかという。子どもが少人数あるいは、大規模の教育環境がどうなのかというところもしっかりとイメージ化して、今教育長が言ったように、複式であればどういうメリットがあってデメリットがあるだとか、小規模校でのメリット・デメリットあるいは、大規模校であれば、メリット・デメリットがあるのかそういったことをしっかりと理解したうえで。参加者が、大人が理解したうえで、望ましい教育環境というのはどうなのかという議論をして、将来の子ども達が学ぶであろう教育環境はどういったものが望ましいのかという、子どもの視点に立った、その中にはやはり学校、文化、地域を担う、学校文化の存続を担う声も地域に学校がなくなるデメリットというのも、当然それも分かりますし、それ以外の総合的な施策として訴えていくといったことも議論の中に入ってくる

と思いますけれども、最終的にどこで合意形成を図るかといったときの判断の一番の大事なところになってくるのが学ぶ環境なのではないかと思います。

田口市長

今お聞きしたのは、合意形成した際にみんな我々行政サイドもそうだし、親御さんもそうだし、地域の方も学校の先生もみんなも子どものことを考えて、今後の在り方について考えたときに、どうやって合意形成を図っていくかが非常に難しく、何を優先していくかをこれから問われていくかと思ひましてお聞きしたのですけれども、他の委員の皆さんはそういった視点というか、皆さんも子どものことを当然考えていくと思うのですけれども、いかがですか。感情も入ってくるだろうし、いろんな思いが入ってくる中での合意形成というのが一番ハードルが高いのではないかなと思うのですけれども。これから進めて行く中で、そういった部分には直面していくと思いますが、その際にはまた皆さんにご相談をかけることにはなると思うのですけれども。

田口委員

市長、ちょっといいですか。やはりその際に重要になってくるのは、国で将来がどのようになっていくか10年後20年後を予測して、将来の子ども達を育てていく能力はどのような能力なのかということ、様々な面で学校教育で訴えるというわけですね。それが、保護者や地域の方々や地域住民にはなかなか浸透していないと思います。そうした将来の学校像や望まれる子ども像、必要な能力、そういったものについて何が必要なのかということ、今学校現場は一生懸命考えながら対応していると思うのです。ICTも含めてですね。これから必要な子ども達の能力は何か、単なる私的な理解ではなくて、自分で課題を持って課題を追求する能力、自己解決の能力を育てることが子ども達に必要なだといったことを教育現場は考えてやっているわけです。そうした将来必要

とする能力といったものをイメージ化して、教育委員会の方がしっかりとそれを説明して具体的に分かりやすいように、子ども達に必要な力は何なのかといったことを具体的にイメージ化させていくという説明も当然必要になってくると思います。

須田教育長

はい、よろしいでしょうか。今回、視察で色々な説明を聞いた際に複式学級だからといって学力は下がるかということ、下がらないということは確かです。なぜかということ、家庭教師みたいな状況ですから。では何が一番課題かということ、色々な教育長さんたちに言われたのは、やはりコミュニケーション能力です。その部分については、どうしても複式の場合人数が少ないとマイナスになると。それをクリアするためにタブレット等もあるということで、それも数多く実施しているそうですが、やはり一番厳しいのはタブレットのみではその場の空気とかがあり、コミュニケーション能力をどのように高めていくかが一番課題なのだという話がどの教育長さんからも言われたところであります。

学力の面に関して、授業を3人4人でやるわけであり、マンツーマンですから、学力に関してはそれほどではない。ただ、色々な意見に触れるといった面では足りない部分はあるかもしれない。やはり一番危惧される、心配なのはコミュニケーション能力のところであると話しておりました。

あと、今回適正配置準備室のメンバーで一度、田沢から鎧畑から角館小・中学校までどのくらいかかるかということで廻ってきましたけれども、やはり時間がかかります。文部科学省の基準からいくと、本市の学校数は一小一中です。しかし、それは果たしてどうなのかということを、今回準備室のメンバーが廻ってみて、小学校1年生の子どもが角館小学校まで来れるのかということ、実際乗ってみると厳しいことが判明しましたので、その辺も十分、子ども目線に立って、

バスのことも含めまして検討していかなければならないのか
と思ったところです。

田口市長 はい。橋本委員から地元中学校を卒業して、今高校に通っ
ている生徒達にもアンケート調査の範囲を広げた方が良いと
いう話がありましたが、準備室での対応はどうでしょうか。

若松学校適正 そうですね。もし書くとして、設問の内容を一般向けとし
配置準備室長 て想定したものとはまた別の内容の設問内容になるのかと思
いますけれども。確かに自分が育った環境はどうだったかを
聞く視点も重要だと思しますので、こちらで検討してみたい
と思います。

田口市長 その視点も非常に重要だと思しますので、当事者のみなら
ずですね、自分たちもこんな思いでいるけれども、できれば
こんなふうに自分たちの母校があって欲しいだとかそういった
ところも吸い上げていくことが必要だと思しますので、対
応を検討してください。

それでは、細川委員から説明会等に保護者の方に多く参加
してもらった方が良くといったお話でしたけれども、案内に
ついては個別に行うということでしたけれども、そのほかに
何か参加者を増やす取り組みとか考えていることがあれば、
ご報告いただきたいのですが。

若松学校適正 はい。やはりチラシを作ってご案内したいと考えていたの
配置準備室長 ですが、イメージとしては広報誌をですね、A4裏表にした
格好で、ご参加くださいといった内容を入れてお配りしたい
と思っております。広報誌でも、現状の課題等をお伝えしよ
うと思っておりますけれども、個別のチラシでも裏面に現状
と課題についてもよく見ていただきたいということで、そう
いったチラシを作ってご案内したいと考えています。対象は、

保育園、こども園、それから小学校、中学校の保護者の方です。

田口市長

なるほど。せっかくですので、委員の方々からも説明会に親御さん等の参加者を増やすためのお考えやアイデア等があれば教えていただきたいのですが。

細川委員はどのようなイメージをお持ちですか。当然、皆さん関心はお持ちなんですかね。

細川委員

そうですね。さっきもお話ししたとおり、こども園、幼稚園の保護者の方と低学年のお子さんがある保護者の方が一番興味があるというか、一番よく考えていただきたいなというところがあるので。

田口市長

当事者としての関心は非常に高いというか、心配ですよ。今後どうなっていくのかが。

細川委員

でしょうね。さっきもお話ししたのですけれども、黄色い線を見ると、やっぱり減少していきだけなので、今自分の子どもがいる小学校がこの先どうなっていくのか、これから小学校に入るけれども将来どうなるのかということ、こちらからも発信していくことは、限りなくこれから考えていくべきことなんだと思いますけれども、やはりそこに向かって参加してくれる保護者の方がどのくらいいるというのが正直分からないので、来ていただいて判断できることなのだと思うので。

田口市長

今の親世代の方の連絡網というのは、ラインとかであるものですか。例えばそういうもので、何月何日にこういうものがあるとか。

細川委員

ありますね。おそらく、小学校でもそういったものは活用していると思うので出していただいて、学校のメールでも配信していただく形をとっていただければいいのかと思います。

田口市長

できるだけとにかく周知して、いつ、どの地域で行うというのを知っていただくことが重要だということですね。

分かりました。他に何か説明会で親御さんの出席率を向上させる何かがありましたら。

田口委員

そういった会で人を集めるというのは、なかなか難しいと思います。一回学校でも説明を受けているわけですよ。そうすると、またあの説明を聞くのかと考える保護者もいると思うので、今回はいいやと。やはり6時半に仕事から疲れて帰ってきて、その場に行って聞こうという意欲・興味・関心をいかに湧かせるかということにチラシだけというのはなかなか難しいと思います。

ただ、それ以外の方法というのはなかなか無いですよ。一緒に行ってみないかと保護者同士が呼びかけ合ったりだとかがあれば別ですけども。ただ、行って聞いてみたい、不安がこれで解消されるのか、普段思っている疑問について解消されるのかなという思いを持たせるようなコピーってあると思うんですよ。文言ですね。「これから仙北市は学校が少なくなるの？」だとか、例えばですよ。それがふさわしいかは分からないのですけれども。チラシにその会に行けば、せめてこの情報は得られるという興味・関心が湧く項目を。「本当に統合はするの？」だとか「学校は無くなるの？」とか。分からないですよ、それが良いか悪いかは。なにか保護者が普段思っているような文言を投げかけて。行けば、それについて情報が得られるような、そういう単なる難しい言葉で、何日の何時にという案内では飛びつかないのではないかと。難

しいですけれども。以上です。

田口市長 そうですね。お座なりの言葉ではなくて、我々としても親御さんとの対話で何かしら伝われば良いと思っておりますけれども。

坂本教育長職 若松室長をはじめ、スタッフの方々には大変頑張っていた
務代理者 だいた文言だと思っておりますが、やはり行政がやるのだとこ
 いう堅い内容になるのは避けられないことだと思います。こ
 れを見て興味があるという方というのは、おそらく学校関係
 者以外であれば、高齢の方、年配の方が興味を持つ内容だ
 と思います。更に、この午後6時半から1時間程度という、こ
 の時間にこども園の親御さんに集まれというのが難しいで
 す。自分が行っていない学校のために子どもを預けて行く
 というのは厳しいものがあるし、それを理由に行かないとい
 うことも十分あり得ると思っておりますので、もし可能であれば託児
 をすとか。こども園と連携してその時間だけ見ますとい
 うようなことで、子どもの心配はなく親御さんは来てくだ
 さいというようなことがあれば行きやすいかもしれません。

田口市長 特別託児を会議の時は受け付けるので、子どもをお預けに
 なって是非会議にご参加くださいということですね。

坂本教育長職 子どもがいるから行かれないという理由が無いような方法
務代理者 があれば良いと思います。

田口市長 なるほど。これは検討の余地があるのではないのでしょうか。
 特に子どもが小さい親御さんは、そうしていただくと逆に会
 に参加できる根拠になると思いますので、ちょっと検討して
 いただきたいと思っております。せつかくですので、橋本委員何か
 ありませんか。

橋本委員

さきほどからお話ししている保護者の意見交換会ですが、さっき言ったラインなどのやりとりも一つの方法だと思いますし、保護者会というのがあると思いますので、そちらの方に準備室の方で直接出向いて、役員の方に直接お願いして、このような大事な話が今回ありますので、声をかけてくださいというのも一つの手ではないかと思います。

若松学校適正
配置準備室長

今、橋本委員がおっしゃった意見ですが、私も今思ったところでした。これから各学校のPTAの役員さんを中心に呼びかけて、その役員の方から更に声かけをしていただいてご協力をいただくのが良いのかと思ったところです。

田口市長

本当に貴重なご意見、アイデアをありがとうございます。やはり意見交換会ですので、当事者と地域の方々に一人でも多く参加していただいて、教育委員会だとか市だとかではなく、市民みんなでこれから在るべき姿や選択を検討していくことが、最終的には納得していただける結果に繋がるのではないかと思います。是非、今日出していただいたご意見をなんとか検討させていただいて、一人でも多くの方にこの意見交換会に参加していただいて、まずはスタートとして意見交換会に来ていただくことを目指させていただきたいと思います。

それでは、協議案件（１）については、よろしいでしょうか。続きまして、協議案件（２）「持続可能な社会(仙北市版)を目指すために教育委員会ができる試みについて」です。はじめに教育部長からお願いします。

藤村教育部長

４枚ものの資料があると思います。「ヤマメ・サクラマスプロジェクト」とタイトルがあると思います。こちらについて説明を行います。１番の目標ですけれども、仙北市を舞台にふるさとの未来を創る若者を育てるという目標でございます。２番

にプロジェクトの設置の背景と趣旨について読み上げさせていただきます。仙北市は現在人口約25,000人の地方都市であり、少子高齢化や人口減少が加速度的に進展している地方小都市であります。いわゆる「消滅可能性都市」の典型的な都市であります。コロナ感染がまん延した3年前から出生数が激減しており、このままでは「消滅都市」となってしまう、将来的に学校教育や社会教育が停止してしまうという問題に直面しています。そこで、仙北市教育委員会においても、社会減を抑制し、地域を担う人間の育成を今まで以上に推進する必要があります。持続可能な仙北市の創成のためには、ふるさとを愛し、ふるさとを誇りに思い、仙北市の未来を担う人間を一人でも多く育てていかなければなりません。そこで、「仙北市を舞台にふるさとの未来をつくる若者を育てる」を目標に捉え「仙北市ヤマメ・サクラマスプロジェクト」推進していきます。ヤマメは、ふるさとの川に残り、ふるさとで子孫を残す魚であります。サクラマスは、いったん海に出て行きますが、また産まれた故郷の川に戻る魚であります。ヤマメ型人間、サクラマス型人間、どちらでもかまわない。仙北市創成のために、教育委員会はあらゆる施策を講じていくものでございます。

具体策につきましては、鈴木次長から説明させていただきます。

鈴木教育次長
兼学校教育課
長

私からは、具体策について説明いたします。一つ目は、仙北市版キャリア教育「せんぼく夢・志教育」です。具体的には3つのことを考えています。

一つ目は、仙北市における職場見学や職場体験の実施です。地元の企業や経営者に依頼し、小学校の低学年から職場見学や職場体験を実施します。

二つ目は、仙北市キャリアマイスターによる講話・講演です。現在、生保内小や角館小、角館中で実施している地元経営者や職業人による講話や講演を全小・中学校で行うことです。

三つ目は、仙北市夢ガイドブックの作成です。仮称ですが、仙北市キャリア教育アドバイザーが中心となり、ふるさと仙北市の企業や個人経営者を紹介する情報誌を作成し、進路指導資料とします。この3つが「せんぼく夢・志教育」の内容です。

次に大きな二つ目は、子ども参加型市政を目指して、来年1月に行われる子ども議会で子どもが市に人口減少抑制や社会減に対しての施策を提言することです。予算を3千万円として実現可能な策を提言してもらいます。

三つ目は、公民館事業として、若者交流プロジェクトです。公民館や市民会館主催で若者が交流できる場として、ヒップホップダンスやeスポーツなどを行う事業です。

次に仙北市ヤマメ・サクラマスプロジェクトのポンチ絵をご覧ください。川と魚がついたポンチ絵です。仙北市の大きな川は、玉川・桧木内川となっています。その川で生活しているヤマメやサクラマスの稚魚を子どもと考えます。川は、生活の拠点となるため、家庭・学校と考えます。川の栄養源を生み出すのは、山の自然であり、仙北市と考えました。大人となるヤマメ・サクラマスがここで生活するためには、まずは、子どもたちが生き生きと学べる環境づくりが必要です。ソフト面では、学校教育が重要であり、そのためにも教職員の資質・能力の向上が必要です。秋田県教育委員会とともに、向上に努めていきます。ハード面では、子育て世代が子どもを育てたいと思う環境づくりが必要です。洋式トイレ化、照明LED化は、SDGsの面からもとても重要ではないでしょうか。また、ICT機器を活用しての教育がスタートしていますが、起業家・企業人の育成が仙北市では必要ではないでしょうか。

ヤマメ・サクラマスプロジェクトには、キャリア教育・子ども議会・若者交流支援プロジェクトという具体策を提案しましたが、ポンチ絵にあるとおり、ハード面の整備も必要ではないかと考え、提案させていただきました。

なお、全体の協議終了後で結構ですので、もし時間があれば、

私からお願いがあります。その時はよろしく申し上げます。

藤村教育部長　　今回の若者交流プロジェクトにつきまして、高橋中央公民館長から補足をさせていただきます。

高橋中央公民館長　　はい。若者交流支援プロジェクトについて、ご説明をさせていただきます。公民館事業を進めるにあたり、私どもはいつでも・どこでも・誰でも学ぶことのできる、生涯学習が身近に感じられる学習機会を提供するという事を目的に事業を推進しているわけですが、現在の各公民館の共通する課題として、新規受講者の獲得、特に若者世代の参加、利用の向上について、特に取り組むべき課題となっております。

若者交流支援プロジェクトは、公民館、市民会館等を若者の交流の場として活用してもらい、若者自らが学びたい学習について支援します。資料にありますとおり、ヒップホップダンスやeスポーツなど、若者たちが自ら講座を選べるような形を考えております。興味を持てる若者文化を通じて、公民館を利用してもらい、参加者間の交流が進んだ後、地域との交流にも結び付けて欲しいと思っております。

同様な取り組みの事例としては、「若者×公民館」で始める未来の作り方と題しました、岡山市では、「若者のこんなことできないかな」とのアイデアを応援する事業があります。地域活性化や、町づくり、町が元気になるような取り組みやアイデアに、講師謝礼を用意して応援するもののようなものです。事例として、社会人の先輩から話を聞く機会や防犯防災の講演会の企画などが実現しているそうです。

このような先進地事例を今後とも収集し、参考にいたしまして、仙北市に適した活動に落とし込みながら、今後、推進していきたいと考えております。

以上、簡単ですが事業の説明といたします。

田口市長

はい。それでは、今ご説明にありました仙北市ヤマメ・サクラマスプロジェクトでございませけれども、また委員の方からご意見・ご質問を伺いたいと思います。今度は坂本委員からお願いします。

坂本教育長職務代理者

はい。ヤマメ・サクラマスプロジェクトという名前に大変驚きまして、私本当に魚に詳しくなかったので、調べました。ヤマメとサクラマスは同じなんですね。そのまま残るヤマメ、それから出て行って帰ってくるサクラマス、本当に良いネーミングだなとまずはそこに感動しております。キャリア教育ですとか、今ここで育てている子ども達がこのまま仙北市に残り続ける、あるいは一人でも二人でも帰ってくるために今何が出来るかというのを考えるのは、やはり大人の役目だと思います。そして、その大人が子ども達のために何が出来るかということを考えて、具体的な案が浮かぶわけではないのですけれども。

数日前の新聞にも出ていましたが、文科省でも勧めている企業体験活動、こちらを起こす業務をですね、起業する若者を育てようという計画。都会に比べたら仙北市は働ける場所が限定されてしまいます。でも、その中でも自分の好きなことをこの地域で仕事にできるぞという何かそういう夢が、仙北市でも夢が叶うんだぞということを教えていかなければならないんじゃないかと思っています。なので、先ほどのお話にもありましたけれども、この地域で起業をした先輩方の話を聞くというのが一つ。それから、自分で起業はできないけれども、この地域で働きたいという子ども達のためには、もっとどんな仕事がこの地域にあるというのを見せなければならぬと思います。特にですね、行政、市役所がどんな仕事をしているのか、おそらく一番の職員を抱える事業所なわけですから、一口に市役所職員と言ってもこんな仕事がある、これも市役所がやってるんだ、そして税金で動いているんだというところまできっちり教育できるような仕組みができればいいなど。特に教育委員会で

も、公民館というのはいくつかのことをしているんだという本当に具体的なことを、結局子ども達に興味を持たせるような市役所探検みたいなことも良いのかな、なんて考えたりしていました。

あとですね、少し話が変わるのですが、私が長年取り組んできていることの一つにジェンダー平等があります。これは、SDGsでもそうなのですが、ジェンダーの平等を実現することによって子ども達の将来が変わってくるのではないかと思います。例えば、女性の管理職を増やすと。今年、教育部長を女性が就任されまして、これは非常に良いロールモデルになると思います。女性でもこうやって管理職になれるのだ、自分らしく輝けるのだという見本にもなると思いますし、更に女性の校長先生、教頭先生、理系の先生などでそういった姿を見せることによって、子ども達がこの街で学校の先生を目指してみようかなということもひょっとして増えるかもしれません。また、それと平行して、LGBTQの取り組みも進めていきたいと思っております。この街で暮らしやすいという、当事者にとっても生きにくさを感じない街であることも大切だと思いますので、そういったことも全てにおいて考えながら進めていけたらなと思っています。

田口市長

はい、ありがとうございます。では、細川委員お願いします。

細川委員

はい。わたしもこのヤマメ・サクラマスプロジェクトを前回の定例会の時に話をお聞きして、私なりにいくつか考えてみたのですが、将来仙北市に残って仕事をしたい、家庭を持って生活していきたい、都会に出て戻ってきたいといこうことは、子どもにとってこれから生きていく中で選択していくことだと思うのですが、例えば、さっきのアンケートと一緒にしてしまうのは失礼かとも思ったのですが、子ども達にアンケートを書いてもらって、子ども達が将来仙北市に残

るとしたらどういう仕事がしたいだとかそういったものをとってみるのも一つの案かと思います。そしてわたしの理想というか、例えば大館市はニプロファームだとか、そういう大きい企業がきているので、おそらく若い人たちはそこで働けば生活も安定できるのではないかと考えているんだと思うんですよ。それと同じことを仙北市でやるのは難しいと思うので、時間もかかりますし、色々なことをしないとけないと思うので、まずは子ども達に逆にアンケートを書いてもらって、どのような仙北市でどんな仕事していきたいかということをとってみてはいかがかなと思います。

田口市長 はい、ありがとうございます。では田口委員お願いします。

田口委員 ヤマメ・サクラマスプロジェクト、さすがだなと。全県、あるいは県南地区を中心に各地域、各学校を学校訪問された経験のある教育長や次長が様々な意見を教育委員会で集めて、今、仙北市に必要だと思われる最新の事業が集約されている感じがいたします。どれも賛成ですし、是非実践に移していただきたいと思います。

ただ、これまでも仙北市は塩野米松さんの聞き書き学習も歴史にあるわけですがけれども、昔の角館東小から始めたのかな。角館中、あるいは神代中、西明寺中と段々地域を広げてかなりの年数、それも冊子にして、それを地元の実業家の方々にも。

活躍している方へ生徒が塩野さんの手法を聞きながら、なぜこの職業にいたったかとか、そして苦労は何だったのかとか、様々な職業意識、それから生い立ちも含めて綴られた貴重な資料となっています。そういったものを作ってきて、子ども達はその活動の中で、単発じゃないんですよ。何回も行き来して聞いたり、何回もテープ起こしをしながらその人の生き方を探ってみたり、もっと情報を聞きたいだとかいうことを、わずかな文章量だけでもそこに集約していく過程で子ども達がそ

の職業意識を持ったり苦勞を知ったり、子ども達のこれからの生き方に関わる琴線に触れるような体験を積み上げてきて、非常に素晴らしい活動だったと思いますし、それが一つの冊子となって積み上げられて、もう何十冊にもなっているはずです。そうした活動も仙北市は地道にやってきておりますので、その手法を受け継ぎながら、もちろんその活動も続くのかもしれませんが、現在の若手、あるいはこれからの仙北市を担う起業家の方々も含めて、こうしたこれからの職業観も変わってきていると思いますし、当時とはまた違うと思いますので、見比べてみるのも一つではないかと思います。いずれその活動を通じて、単発ではなく、聞いた話で終わるのではなくて、やはりその聞いたことがきっかけで何かの活動に結びついていくかどうか、あるいはしっかりと振り返って自分なりの生き方に反映させるような自我の活動をするだとか単発で終わらない、子ども達の生き方に響くような活動に結びつけていただければ有り難いと思います。単なる体験に終わらない、そもそも一番危険なのは行って終わり、やって終わり振り返りも無いのが現場にとっては、現場を預かってきたものとしては自分も反省した点でありますので、先生方が忙しい中では出来ないことでもありますし、準備にも時間がかかることでもありますので、そうしたことにも配慮しながら成果のある取り組みにさせていただければありがたいと思います。

それから、子ども議会に対してはこれまで取り組んできたことだと思いますけども、実際に予算化されて具体的な計画になっていくということは大きな励みになるだろうし、そのことで子ども達の議論が更に深まることも予想されますし、子ども達の今後に残る、子ども達の現状をしっかりと理解する良いきっかけとなるだろうと思いますが、それが一部の子ども達の議論に終わらないように、それに向かうために各学校で、あるいは学年でも良いかもしれませんが、色々な生徒出来るだけ多い人数の子ども達で議論があつての子ども議会に結びついて

いく過程であって欲しいと思います。

公民館事業については、私も若者の交流の場があっても良いのかなということを今日提案しようと思ってきましたけれども、正にそれを提案していただいて良かったなと思います。若者が交流できる金額をある程度援助して、場所を提供する。様々なサークル活動は市内でもたくさんあるのかな、それを応援するような取り組みがこれから必要になってくるのではないかと。若者が仕事帰りに交流する場が広がって、横の繋がりが出来ていくと、年齢を超えての繋がりの場が広がっていくことはこれから大事だと思いますので、出来るだけ条件を下げた形で財源は限られると思いますけれども、広く浅く交流する場を応援していきたいと思いました。

田口市長

はい。ありがとうございます。では、橋本委員お願いします。

橋本委員

はい。子ども議会に対して3,000万円の予算で考えてくださいというのは、非常に思い切った事業であると思いました。子ども達も興味を持って良いアイデアを出してくれるのではないかと思います。

それから、市内にどのような企業があって、どういった仕事をしてるかということ、中学生や小学生に分かっていただくためにもこういった情報誌を作って、皆さんに事前に将来に向けて周知すれば、地元でこういう仕事がしたいということに繋がると思いますので、是非取り組んでいただきたいと思います。

若者の交流支援プロジェクトですけれども、仙北市の予算でやるということですが、せっかく若者を交流させるということですので、主催は仙北市で結構でございますけれども、大仙市などの他の地区へも呼びかけて、異性同士の交流が生まれると、もしかすると結婚する人も出てくるかもしれませんので、

是非市外にも呼びかけてみることも考えてみてはどうかと思いました。

それから、自分で何か考えてこなければいけないかと思って色々考えました。なかなか名案はありませんでしたが、二つお話しさせていただきたいと思います。一つは仙北市育英奨学資金のことですけれども、平成29年度頃は44人くらい利用していたようですけれども、令和3年、令和4年は8人くらいと少なくなっているということで、これはやはり毎回PRなりをして、仙北市に居住して仕事をすれば償還が免除になることもあるので、そこらへんを強くアピールし、応募資格とか金額とかを思い切って見直して、活用を呼びかけていくのはどうかと思いました。

もう一つは、山村里山留学推進事業ということで、全国で何か所か取り組んでいるようでしたけれども、他の自治体の小・中学生が、市内の小・中学生と一緒に学んだり体験学習をして、地域や学校の活性化に繋げようというものですけれども、1年間の長期留学や学校の休業期間中の短期の留学、そういったことをやっている地域もあるみたいです。親子が移住することになるので、仙北市では住宅の紹介などの便宜を図る必要もありますけれども、市内の様々な魅力に触れることで、将来この地域に住んでみようということに繋がれば人口の増加にも寄与できるのではないかと思いますけれども、なかなか難しいと思いますが、先進事例だとかを聞いてみて、可能性について進めていただければと思います。

田口市長

橋本委員、その山村里山留学は親子で移住するのが条件なのですか。

橋本委員

条件については、自治体ごとに色々あると思いますけれども、やはり子どもだけで1年間留学するのは無理だと思いますので、親子と一緒に移住することが必要になると思います。

須田教育長 1年程度ですか。

橋本委員 長くて1年のようです。

田口市長 そうなのですね。すみません、よく知りませんでした。

須田教育長 まず、色々なところでお話がありましたけれども、私の代わりに先ほど次長から提案があるということでしたので、次長にお願いしたいと思います。

鈴木教育次長 時間のないところ、私から2つほどお願いしたいことがあります。1つ目は、先ほども話をしましたが、ハード面の整備です。昨年度当初予算の査定時に、財政課の方々から重要なことは、市長の耳に届くようにした方がよいというご助言をいただきまして、なかなかそのような機会がありませんので、お話しさせてください。

お願いですが、3枚目の持続可能な学校の在り方についての表をご覧ください。赤枠で囲っていることが今後、必要なことと考えます。しかし、これは、今回のヤマメ・サクラマスプロジェクトを提案したから必要となったものではなく、今までもずっと継続して要望してきているものです。突発的に必要となったものではないことを理解いただければと思い、発言させていただきました。

なお、神代中では、学校評価で保護者・教職員から机を新しくしてほしいという要望があり、令和4年度当初予算に生徒用机30台要望しましたが、つきませんでした。そのまま使用させるのは、心苦しいという私の判断で、天板を購入し、学校教育課の職員が3月下旬に取り付けをしました。現在、神代中2年生で使用していますが、とても好評であるとお聴きしております。財政逼迫しているのは、重々承知しております。無理な

お願いであるかもしれませんが、知恵を出し合い、工夫と努力をしていることを理解していただきたいと思います。

2つ目は、校舎等の活用計画についてです。3枚目の学校適正配置計画策定後の校舎等の活用についてという資料をご覧ください。学校適正配置計画が令和8年度に策定される予定ですが、実際に新しい枠組みで学校がスタートするのは、5年後、令和13年度あたりになるのではないかと推察します。そこで、令和13年度と考えたときに、その後の校舎や体育館をどのようにしていくのか、同時進行で考えないといけないのではないのでしょうか。表にしてみると、思ったより時間がないと私は思いました。こちらは、まちづくりと関連するものであり、市当局で検討していくものと思われます。どうか、ご検討していただきたいと思います。

すみません、お時間がないところ。2点のお願いでした。

田口市長

はい。委員の皆様からヤマメ・サクラマスプロジェクトに対してのご意見をいただきました。私も以前から非常に感じているところがあって、私は元々中小企業の経営者なので、中小企業を営んでいる身内がたくさんいます。彼らが何を言っているかということ、働く人がいない、足りない、応募してくれる人がなかなかいないということです。そして、働くべき若者の話を聞くと、仕事が無い、働くところが無いということでも矛盾しています。なぜかと思ったときに、そこは言葉足らずで、若者は働きたいところが無い、働きたいような仕事が無い、というようなことなんです。それって、皆さんから指摘のとおり、正しい情報が伝わっていない可能性がある。こういう仕事がある、こういう会社がある、こういう働きがいがあるということの情報を得る手段が無い。ハローワークの情報とか就職斡旋の情報しかない、というのも非常にマッチングができていないという。せっかく地元に残りたい若者が、地元に残りたい仕事が無いので仙台に行きますとか、県外で就職を決めましたと

かっていう話が聞こえてくることは実際にあります。そういった意味でも委員の皆様からご意見いただいた、正しい情報をしっかり発信するということはすごく重要なのかと。特に、中学校とか高校の時に地元の企業の経営者であったり、もしくは体験であったり、具体的には仙北市役所が雇用が一番多いので、仙北市役所ではどんな仕事をしているのか私も日々勉強させていただいておりますけれども、子どもの時にそういったことを学ぶ機会というのは無いと思うので、仙北市役所体験、いいんじゃないですか。そろそろここに来てもらって、その時は職員も緊張して働くと思いますけれども。そういう機会で、なるほどと、こういうことをされているんだと、では自分も将来そういったことをしてみたいなど。要は、皆さんがおっしゃっていることの一つには、私もそうですけれども残る理由ですね。なぜ地元に残って、住み続ける理由は何なのか。地元の先輩達の話聞くのは、そういうことではないかと思います。自分は少子高齢化で人口減少が非常に厳しい地域ではあるけれども、こういう理由で自分は仕事をして今生きていますと。もしくは、こういう理由で自分は起業しましたと。新しく自分は会社を立ち上げて、ここで会社を運営しているのです、というようなところを話してもらうことは、子ども達にとって地元に残る理由づくりの一つになるかと私は聞いていました。

それから、細川委員からあった、子どもへのアンケートの実施、これもすごく楽しいのではないのでしょうか。子ども議会もそうですし、アンケートで何が仙北市に求められるのか。子ども達は何を求めている、何がやりたいのかを実際に私たちは把握できていない。でも、将来子どものためにと私もずっと言っています。次世代のために、子ども達のためにこのふるさとを継承していきたい。では、継承すべき子ども達はこの地域に何を望んでいるのか、そこをしっかりと我々現役世代が理解して、子ども達の期待に応えられるようなまちづくりをしていかなければ、子ども達は希望を持ってこの地域に残れないのではな

いかと思って聞かせていただきました。具体的なさっきの話ではないですけども、子ども達の期待する仕事、どんな仕事がしたいんだろうということもそうだと思いますので、子どもに対してのアンケートというのは非常に面白そうだなと聞かせていただきました。大館はニプロがありますからね。仙北市も何かあれば良いのですが。

細川委員

そうなんですよね。すごくインパクトがあると思いました。本荘のTDKも同じくらいの感覚ですよね。私個人的にはすごいと感じるので。

田口市長

あとは、田口委員からアイデアが素晴らしくて、これが単発に終わることがないように。やはり継続していくことだと。企業の方が関わることで、長年続けてきたことも実績としてあるということでしたので、しっかりとそれも踏まえたうえでヤマメ・サクラマスプロジェクトに関しては実績に繋がるように、またそこから派生して、子ども達にとって色々な方々との接する機会であったり、学ぶ機会になるようなプロジェクトであるべきだと私も思いましたし、結果的に子ども達のこれからの生き方の何かヒントになるようなプロジェクトであるべきだとも思って聞かせていただきました。

子ども議会は3,000万円という非常に現実的な予算で子ども達は何にお金を使うのか、私も非常に楽しみにしています。これも生徒会長とか委員長だとか、リーダーの子ども達だけの議会ではなくて、子ども達全体の意見を集約したような議会になればいいなと思っています。

最後に橋本委員から、できれば他市町村との交流も含めて結婚まで繋がれば最高に良いし、若者というのは仙北市限定ではないと思うので、本当に楽しいことであればどんどん若者は集まってくる。そこで色々なふれあいや交流ができて、その延長線上にもしかしたら結婚もあるかもしれないし、友達を増やし

て、地元で友達がたくさんいるからそこに居続けられる理由の大きな要因になるのではないかと思います。

留学の話も具体的に、奨学金についてもそういった有利に活用して地元に残って就職してくれれば、返還する必要がないというのも、一つの理由に繋がるのではないかと思います。

私は教育長からプロジェクトの話聞いて単純に感じたことは、角館のお祭りと一緒にだなど。角館のお祭りって産まれたときからお囃子の音を聞いて、雪駄をする音がすり込まれているんですよ。角館のお祭りがあるから地元に残っている若者がどれだけいるか。だから残る人がヤマメ、外で就職しても必ずお祭りには帰ってくると、サクラマスとなって帰ってくるわけですよ。これが当たり前の地域だったのが、当たり前ではなくなってきているわけなので、それを我々が意識して残る理由を作っていかなければ、この地域の存続は厳しい現実に直面していることを改めて感じさせていただきました。

最後に私からたくさん話させていただきましたが、久しぶりにワクワクするような気がしました。このネーミングも大変素晴らしいと思いますし、子ども達が地域の人たちと触れ合う機会をもっと増やすべきだし、地域に希望と夢を持って頑張っている人、経営者はたくさんいますので、そういう希望に満ちた志を持った経営者の話を聞くことは、子どもたちにとっても非常に重要なことだと思います。決して子ども達を洗脳するわけでもなくて、自分たちが生まれ育ったふるさとで、年は違うけど同じ市民として、先輩達の生き方というのは何か気づける、これからの将来どんなふう生きていこうかということを感じかせていただける機会になるのではないかと思いますので、ぜひこのプロジェクトに関しては前に進めていただきたいと思います。

すいません、時間もそろそろなので委員の方でなにかあればぜひお話しいただければと思います。

坂本教育長職務代理者

はい。前回の教育会議の時に、ドリハモの映像をぜひホームページにアップしていただきたいとお願いしまして、すぐに対応いただいて本当にありがとうございました。個人で広めるには限界がありますが、市でアピールしていただければたくさんの方が見てくれたのではないかと思います。今後も是非続けていただいて、特に文化系の活動というのはなかなか目立たないので、読書感想文とかも毎回私は感動しながら読んでいます。弁論とかもですね、動画も含めて色々ところで発表していただければと思います。

田口市長

ぜひ発信については積極的に取り組まさせていただきます。ほかに委員の皆様からよろしいでしょうか。

田口委員

昨年第一回の総合教育会議で、前市長がいらっしゃった会でしたけれども、学校の長寿命化計画について提案がありました。令和3年度でスタートすると。それと同時に、学校再編に向けた検討会議があって、そちらの方の長寿命化計画についてはスタートしたのか、進捗状況はどのようになっているのか議論する場もなかったわけですが、それについてちょっと確認したいのですが。進捗状況というのは、その計画に従って進められている状況でしょうか。

鈴木教育次長兼学校教育課長

計画に沿ってというか、どこをスタートにするかがまだ決まっておられません。スタート年度がまだスタートしていない状況です。というのは、このように学校適正配置にもなってきました、どういう形で学校がこの後どうなっていくのかということもありまして、スタートが切れていない状況ですので全く計画があるのみの状況です。

田口委員

先ほど次長から市当局への要望事項がありましたけれども、学校がこれからどうなるかの議論なんて、少なくとも5

年後6年後になって、それ以降の可能性もでてくる。しかし、子ども達は毎日学校生活を送っているわけですので、子ども達の安心・安全という面で40年50年という長寿命ではなくてもですね、直近の安全対策、環境づくりというところには、やはり努めていかなければならないのかなと思います。ということで、第1回目の会議の時はトイレ問題とか様々なことが問題となって教育委員会としての課題となって、今後でも検討していただくことになったと記憶しておりますけれども、今回も寄り添ってあげた方が良いかと思います。

やはり、子ども達がよりよい環境で学び続けること、今いる子どもたちの環境も守っていかなければいけないと思いますので、是非この点については市当局側もですね、可能な限り、財政的な面もあるかと思いますが、可能な限りですね対応していただければ有り難いと思います。

倉橋副市長

今田口委員から長寿命化計画のお話があったと思いますが、次長が先ほど申し上げたとおり、ちょうどその計画の策定と出生数が100人を切る状況が重なりまして、長寿命化計画というのは現行の各小・中学校の校舎をそのまま残し、抜本的に改修するための計画だったわけですから、これは少し止めさせていただきたいというのが我々の認識でした。今、田口委員が提案された必要な改修は、これはもちろん市としても大切にしていかなければいけないと思っておりますので、そこはしっかりと取り組んでいきたいと思っております。ただ、現状では各校舎をそのまま残すわけにはいかないだろうと。そこで、適正配置の議論が先行しなければならないということをおっしゃっているところですので、どうかご理解をいただければと思います。

田口市長

はい、よろしいでしょうか。では、本日せっかく市役所側からも参加していただいていることですので、一言ずつ端的にお

話しいただきたいと思います。副市長からお願いします。

倉橋副市長

はい。私は適正配置の説明会に、最初の白岩地区に出席させていただきます。私の公務はこれが最後かと思えます。白岩地区には少し思い入れがありまして、デマンド交通などでも色々関わってきましたし、他の4地区は小・中学校どちらもある地区ですが、白岩は白岩小学校だけしかないということで、一度全体の適正配置を進める前に白岩が先行して行うイメージができた場所なので、他の地域とは若干違うのかなと思っています。今日の文面のなかに前倒しもあり得るという言葉がございましたけれども、白岩小学校については前倒しもあり得るのかなと。その日にそのような話をするわけではないですけれども、市側としては学校がもし統廃合になったとしても各施設の存続、そしてどのように活用していくのかが市の大きな責任となると思っております。その後も、地域の拠点として小・中学校両方とはいかない場所もあると思えますけれども、そういった視点からも配慮していかなければならないのかと思っております。

いろいろな統廃合の判断に最終的になっていくと思えますけれども、今はまだこれだけ子どもの数が減っているということで、学校の存続以前に地域の存続が危ぶまれている現状だということをご理解いただきたいと思ひまして、地域の方々とこの危機感を共有する場面にしてもらえたらなと思っております。よろしく申し上げます。

田口市長

はい。ありがとうございます。続いて総務部長、お願いします。

小田野総務部長

はい。まず、学校適正配置計画につきましては、意見交換会もごございますが、副市長が初回の白岩に参加しますが、それ以降は私が参加させていただきます。今日色々お話を伺った中で

は、やはり子どもの視点に立って将来の学校像を考えることが重要だということでしたけれども、その通りだとは思っておりますが、その考え方を参加者に関わる人たちがどのように共有していくかが非常に重要だと考えました。それは、粘り強く言う必要があるのではないかと思います。

ヤマメ・サクラマスプロジェクトに関しては、今後の若者の為には非常に重要だと思っています。特に仙北市のキャリア教育に関しては、以前、地方創生が担当する案件に関わる場面もありましたが、小・中学校に関しては教育委員会が忙しいということもあって、なかなかお願いすることができなかつたために、高校生を対象に行ったりしていました。そういった意味でも、今後は教育委員会とも色々連携できる部分があると思えました。

公民館に関してはこれも非常に重要で、予算化という面も絡むので財政当局と連携しながら、こういった形で予算をつけていくか検討しなければなりません。子ども達が市政に参加する重要な場面だと思いますので、できるだけ実現できるように我々も協力していきたいと思っております。

畠山総務課長

はい。適正配置計画についてですが、なかなか満場一致で合意形成というのが難しいと思うのですが、少しでも地域住民の不安を取り除くということで、今後のスクールバスの在り方とか放課後児童クラブの運営だとか、そういったところの問題が出てくるかと思っておりますので、担当部局との話を進めながらの意見交換を同時進行で進めていかなければというところが一つです。

ヤマメ・サクラマスプロジェクトと子ども議会のところですが、予算化する時期について、確かいつも1月頃に開催していたと思いますので、そこで出された意見を予算化するとなると、査定がスケジュール的に詰まっているところに3,000万円というのはなかなか厳しいかなと思います。そこだけ、ス

スケジュールの調整が必要になってくるのではないかとということを感じました。

佐々木主事

はい。プロジェクトの方の話なのですが、キャリア教育の中で仙北市にはどのような企業や仕事があるという話は何回出たと思うのですけれども、私が小・中学生の時には必ず将来の夢を聞かれる場面がありましたが、その時に実際に何をやりたのかが思いつかなかったという記憶があります。子ども達の立場に立ったときに、仙北市にはどのような企業があって、仕事があってということその時点で伝わってれば、夢がもっと大きく広がるのではないかと、とても良い話だなと感じました。

門脇北浦教育
文化研究所長

本日たくさんのお話をいただきまして、北浦文化教育研究所の方で、子ども達のアンケートであったり、職場体験の充実であったりというところで、具体的な対策をご提案いただきありがとうございました。

佐々木教育次
長兼角館公民
館長

公民館はまず若い世代に使っていただく、SNSを利用した情報発信、気軽に立ち寄っていただく等の基本活用を拡充し、新規開拓を広げることが今後の課題に。その点を今後はクリアしていったら、地域の課題は地域で解決する。地域作りを住民の方にも学びの場として提供していければいいなと思いました。

毛利学校適正
配置準備室参
事

学校適正配置に関する意見交換会では、たくさんの方々の地域の声、特に若い世代の方々の声が聞ける会になって欲しいと思います。

私の住所は仙北市ではなく大仙市ですけれども、仙北市の現状を知って、私もなんとかしたいと本当に心から思っている次第です。さらに、ヤマメ・サクラマスプロジェクトのところで仙北市版キャリア教育ということを実施するとすると、今まで

の教育課程を一部見直し変更、そしてどうやってこの時間を捻出するのか。今の小・中学校は色々な新しい教育が入ってきて、かなり手一杯です。ということで、私が今まで勤めていた角館小学校の5・6年生で行うとしたら、何を削るかな、なんの時間を活用するかなということを考えていましたし、小学校でやって終わりではなくて、小・中学校で繋げて一つのもしかしたらできない教育の時間でずっと6年間くらい続けてやることなのかなとも考えたりしました。

あとは、若者交流支援プロジェクトというのも非常に面白そうだなと、覗いてみたいな、一緒にやってみたいなと思いました。

松橋学習資料
館・イベント
交流館長

学校適正配置についてですが、地域を維持するためには学校が必要だという話もよく聞かれます。ただ、将来を担う子どものために何が一番重要かということに絞り込んで導入を進めない、前に進まないのかと思いました。

信田市民会館
長

対象となっているところであれば、若者交流支援プロジェクトのところのすけれども、実は今日チラシを持ってきておまして、皆様にお配りしてよろしいでしょうか。

プロジェクトとは直接関係ないのですが、市民会館での交流を考えたときに、こちらのイベントがあるのですが、予算は一切かかっておりません。予算が無くてもできることというのはあると思いますので、そういったことを市民会館では色々考えていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願ひします。

大石田沢湖公
民館長

はい。公民館ですが、市民会館と同じような考え方で、若者でも家族連れでも気軽にこれるカフェなど、いつでも立ち寄れる状況で、事業とか今までやっていた講習とか研修とかでなくてもこれるような場所をつくっていききたいと思っております。

高橋中央公民館長

いつでも、どこでも、誰でも、ということを広げてきたつもりでしたが、実際には利用者の方の固定化というのが振り返ってみれば、問題になっていたのかということがあります。

今、市民会館からお話いただいた事例がありますので、色々な意見を吸えるところから見ても、連携していきまして、多くのアイデアに対して柔軟に考えていけるような体制を整えていきたいなと思っております。

武藤生涯学習課長

学校適正配置について、私が高校に入った頃を思い出しまして、というのは、私は同級生が30人にも満たない幼・小・中学校でしたが、同級生がもっと少ない方が良かったと感じたことは一度もなかったです。ということと、高校に入ってからやっとクラス替えができるなと思ったことを思い出したりしました。

ヤマメ・サクラマスプロジェクトに関しては、具体策の(3)が私に関係するところですので。例として、ヒップホップダンスやeスポーツなど、他にも色々支援するジャンルが出てくるかと思えますけれども、いずれにしても、やや社会的に煙たがられるといたしますか、そういうジャンルを行政が支援することだと思っております。ただそれは、そういったものに寛容になっていくような雰囲気づくりをしていくものじゃないのかと、そういった感覚で取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひします。

湯澤教育総務課長

私からは、学校適正配置についてですけれども、これから市民説明会に向かっていくところですが、これからの場面を想定しますと、市民の立場で考えますと、学校適正配置ということで当然市民の皆さんは将来の教育のこと、現在の教育のこと、教育以外といたしますか、市民の皆様の生活とか、地域の人口減の対策のこと、これからの仙北市の将来のまちづくりなど色々

なことが当然求められるかと思えます。教育委員会としては、学校適正配置について、本日色々な貴重なお話がありましたけれども、そういった視点で丁寧に説明していくことには変わりはないと思えますけれども、適正配置についての具体的な計画とか必要な経費だとかについては、これからまだ少し先ではありますけれども、先ほど倉橋副市長からお話がありましたけれども、市民の立場で考えますと、教育と地域の存続についてということについて適正配置説明会の時に、お話が出たりするのではないかと思います。副市長、総務部長が出席していただけるということでしたけれども、この後の説明会に限らず、学校適正配置を進めるうえでは仙北市全体の施策についてより市民の皆様にご存知いただくことが教育委員会で今進めている学校適正配置にはとても重要だと前々から私も思っておりましたので、引き続き総務部の皆様、財政課の皆様と連携をとりながら進めていくことが大切だと改めて感じたところでした。

田口市長

はい、ありがとうございます。その他につきましては特に案件はございませんが、何かありますか。よろしいでしょうか。

長時間にわたって大変貴重なご意見をありがとうございます。本日の協議はこれで終了させていただきます。進行を総務部長へお返しします。

小田野総務部長

本日は、皆様から大変貴重なご意見を頂戴し、誠にありがとうございます。これをもちまして、令和4年度第1回仙北市総合教育会議を終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございます。

(午後3時50分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員